

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

1 学校教育目標	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の个性的で多様な進路の実現を図る。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な学力を身に付け、主体的に課題解決に取り組む生徒</li> <li>基本的生活習慣を身に付け、自分と多様な人々の生命の安全と互いの人権を尊重し、規律を守る生徒</li> <li>自分に適した進路目標を見つけ、進路実現のための学力とコミュニケーション能力を身に付けた生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な内容の定着を図るための「学び直し」を実践するとともに、具体的な到達目標の設定と指導内容の重点化を推進</li> <li>保護者との連携を図りながら共感的な生徒理解に努め、ユニバーサルデザイン（不破高スタイル）を基礎とした段階的な支援（New 不破高スタイル）を実践</li> <li>単位制のメリットを活用した5つの類型による教育課程を編成し、進路希望に即した科目選択を充実させ、自己適性の的確な理解に基づく進路目標を実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動にコツコツ取り組む生徒</li> <li>部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒</li> <li>学校生活に真摯に取り組み、進路実現を目指そうとする生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇学校経営		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒対象のアンケートの方が、保護者対象のアンケートの結果に比べて、肯定的な回答が目立った。</li> <li>「本校に入学できて良かった。」と思っている生徒が80%を超えている。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進します。 コミュニティスクールとして、地域との積極的な連携交流を図り、本校の特色を活かした「ふるさと教育」を推進します。</li> <li>◇授業規律や基本的生活習慣の確立を図り、全職員が一体となった単位制高校としての学校運営に努め、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開及び環境整備を推進します。</li> <li>◇生徒・保護者・学校関係者の意見を学校運営に活かし、常にPDCAサイクルに基づき学校改善を行います。また、積極的な広報活動を推進し、学校の教育活動を地域社会等にアピールします。</li> <li>◇コミュニケーション能力の向上を図る取組の一つとして「高等学校少人数コミュニケーション講座推進事業」の成果を踏まえ、高校における特別支援教育を推進します。</li> </ul>		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地元の小・中学校との積極的な意見交流を図り、本校のありのままの様子を公開し、率直な意見をいただく。</li> <li>② 「ふるさと教育」を推進し、学校の教育活動を地域社会等に発信します。</li> <li>③ コミュニケーション能力の向上を図る取組として「演劇ワークショップ」、「高等学校少人数コミュニケーション講座推進事業」等の円滑実施に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 効果的な地域社会との交流について検証する。</li> <li>② マスコミへの積極的な情報提供やHPの充実を図る。</li> <li>③ 「自立活動」および「自己探求」（学校設定教科）の指導法を研究し、生徒の困り感解消につなげる。</li> </ul>		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①地域社会の行事等で企画準備段階から参加し、参加型のボランティアが実現した。 ②メール配信システム等を活用し、家庭との連携を図った。 ③指導計画を修正しながら、円滑に学習内容を実施することができた。	①地域の活動に積極的に参加できたか。 ②学校の教育活動を積極的に発信できたか。 ③対象生徒に適した指導内容を実施することができたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
12 成果・課題	○「自立活動」や「自己探求」において、校内研修を実施し、職員全体で生徒の困り感に対応するための支援の在り方について学んだ。 ○学校行事の公開や、部活動の発表などを通じて、保護者や地域の方にありのままの様子を公開した。 ▲定量的な資料をもとに分析をしていけるといい。	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>垂井町との継続的な連携を生徒の学びに位置付ける。</li> <li>積極的な広報活動を継続するとともに、無理のない地域との継続的な連携を検討する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

### 【意見・要望・評価等】

- 基礎学力の定着と生活習慣の確立に向けた方向性は正しい。ただし、定量的な資料に基づいた分析があるとよい。
- 不破高校のホームページで、園児と高校生の交流を見て心を打たれた。少子化と言われる時代の中で、高校生が幼い子と触れ合えるのはとても貴重な場である。
- ボランティア活動について、成功体験が積み重なることはとてもいいことである。
- 行事に参加したが、生徒が明るく、生き生きしていた。先生方も生徒たちに溶け込もうとしていたことがよかった。先生と生徒が一丸となっていくことで、部活動の成績などにも繋がるだろうし、社会に出たときに、社会に順応する力となる。

# I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇学習指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒対象のアンケートでは、「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」、「テストの得点だけでなく、色々な面から学習の評価を行っている。」、「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。」について、80%以上があてまはると回答している。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、義務教育段階までの「学び直し」を実施します。 ◇少人数授業の利点を活かしながら、ICTを活用した学習活動を積極的に取り入れることにより、主体的な学習態度を育成します。 ◇生徒の資質・能力を観点別に評価します。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校活性化プログラムによる授業研究	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため一人一人のつまずきを把握し、「学び直し」を実施する。 ②少人数の利点を生かしながら、ICTを活用した学習活動を取り入れる。 ③「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で学習評価を行う。	①学習において、生徒一人一人のつまずきを把握し、学習意欲を喚起させ、生徒の能力の伸びを多面的に捉える。 ②授業のねらい等を明確化し、ルールを徹底させるなどして効果的にICTを活用する。また、年間3回の公開授業期間を実施し、教員相互の意見交換を行い、授業改善の一助とする。 ③評価の可視化と、評価の規準について振り返る。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①研究授業を計画的に実施し、参観者から指導内容とその支援の在り方について助言をもらい、授業力の向上に努めた。 ②授業改善講座出張講座（教育研修課）等を通じて、指導と評価の一体化を目指す支援の在り方を研修した。 ③生徒の学びを多面的な指標で評価し、授業へ取り組む意欲の喚起に努めた。	①学習実態を把握し、生徒の指導に活用できたか。  ②③研修の結果を授業改善に活かすことができたか。	Ⓐ B C D  A Ⓑ C D  A Ⓑ C D
12 成果・課題	総合評価 A Ⓑ C D	
13 来年度に向けての改善方策案 ・観点別学習状況評価を行う上での学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行う。 ・生徒が主体的に授業に参加し、工夫における授業方法の研究や授業実践に取り組んでいく。 ・垂井町との継続的な連携を生徒の学びに位置付け、課題解決型学習を推進する。		

# II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生方が、生徒理解を心掛け、基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、生徒一人一人に寄り添い学びを支援している。</li> <li>教材研究の深さを感じます。ねらいを明確にした工夫した授業を拝見しました。専門性の高さにさすがだと感じました。</li> </ul>
--

# I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒対象のアンケートでは、「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出している」「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。」について、80%以上があてまはると回答している。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇不破スピリットタイム (FST) を柱としたキャリア教育を推進し、一貫性のある進路指導を実施することにより、自己の適性を的確に把握させた上で、進路目標を決定させます。 ◇進路目標実現を可能にする学力が身に付くよう、ICTを活用した通信教材や到達度確認テスト等を活用し、事前・事後指導の徹底、充実を図ります。 ◇担任・教科・学年が緊密な連携を図ることにより、生徒一人一人の勤労観・職業観を育成し、進路先未定者を出さないよう努めます。 ◇類型に即したキャリア教育を推進します。社会的・職業的自立に向けて、必要な基礎的能力の育成と、進路目標の実現に向けた支援に努める。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務、生徒支援部、進路支援部、各学年主任を中心に、外部リソースとの連携も図りながら、具体的な取組の企画、立案、検証を行う。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①総合的な探究の時間（不破スピリットタイム＝FST）を柱としたキャリア教育を推進し、学習意欲の喚起や将来の職業選択に向けた心構えの育成に努める。 ②企業見学、インターンシップ、保護者等との面接練習を実施し、就職希望者への積極的な支援に努める。 ③適性に応じた類型に分けたガイダンスを実施し、生徒の希望にあった進学支援に努める。	①FSTプログラムの充実、インターンシップの推進、外部リソースとの連携。 ②キャリアプランナーの活用、ハローワークとの連携、面接・履歴書・小論文指導、就職試験対策を通して内定率100%を目指したがばなかった。 ③個人懇談の充実、個別の学習支援、内定及び合格後の支援。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①FSTは年間計画に基づき、可能な限り組織的・系統的に実施した。夏季休業中のインターンシップも定着した。 ②キャリアプランナーを中心とした企業訪問等を通して地元企業と長年の信頼関係を構築してきた。岐阜協立大学と連携した面接指導等を実施した。 ③オープンキャンパス (Web 含) への積極的な参加や進路ガイダンスをより一層充実させた。	①職員の共通理解のもと、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。 ②有効な支援策を実施し、内定率の向上を図ることができたか。 ③生徒や保護者の考えを把握して、個々の適性に合った進学先の斡旋及び進学実績の向上を図ることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○生徒の希望に応じた類型を準備し、進学先から多様な情報提供を受けられるガイダンスを実施した。 ○より積極的なキャリア形成を目指して、進路決定が終わった3年生を講師として、1、2年生に対して「3年生と語る会」を実施した。 ▲懇談や進路ガイダンスの実施により希望の進学先に合格できたが、それが個々の学習によるものでは必ずしもなく、また進学後の学習を充実させるための基礎学力が備わっているかについては課題が残る。	
13 来年度に向けての改善方策案	・地域との連携を生徒の学びに位置付けFSTの見直しを行う。 ・在学中に成功体験を積み重ねることで、自信をもって進路実現ができるようにする。	

# II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・ふるさと教育の新規事業が興味深い。地元について学ぶことはとても意味のあることである。主体的な活動の姿が見られることを期待する。 ・本校生徒を中学時代から知っているが、高校に進学して3年間で、後輩に指導する姿や、自信をもって生活できている姿を見ると成長を実感した。 ・地元企業と連携する機会が必要であれば協力します。
--

# I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇「生徒指導（教育相談）」	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒対象のアンケートでは、「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」「本校では人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようとしている。」について、80%以上があてまはると回答している。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇保護者との連携を密にして、全職員の共通理解・共通行動のもと、身だしなみ・遅刻・授業規律等の学校生活における規範を遵守する態度を育み、自ら規律ある生活を送ることができるよう援助します。 ◇信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解に努め、予防的・共感的教育相談を推進し、いじめや不登校への迅速な対応に努めます。 ◇学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む体制づくりを整備し、社会参加活動を援助します。 ◇必要に応じて、個別の支援計画を作成し、より細かな支援を実施します。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会(いじめ防止対策委員会)・生徒支援部会・各学年会・人権教育推進委員会・特別支援推進委員会・いじめ防止等対策検討会議	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①家庭との連携を密にして、全職員の共通理解・行動連携のもと、自己指導能力の育成に努める。 ②共感的な生徒理解に努め、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期発見・迅速な対応に努める。 ③自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深め、責任と節度ある態度の育成に努める。	①身だしなみ/遅刻者・欠席者数の比較/授業規律とユニバーサルデザイン/登下校指導によるマナー向上/情報モラルの向上 ②迷惑調査の結果と対応/相談室・保健室利用状況/全校一斉人権啓発行動の取組状況 ③部活動の一層の活性化/MSリーダーズ活動の取組状況/ボランティア活動の取組状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
① コロナによる影響があり単純比較できないが、遅刻者は減少している。また回数に応じた面談等を実施した。交通事故も減少している。 ②「不破高の生徒指導」と「学校いじめ防止基本方針」を改訂し職員間の共通理解と行動連携を図った。迷惑調査の結果を受けて、全体指導と個別指導の両面で、迅速に対応した。少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対し柔軟に対応した。 ③携帯電話・スマホ新使用ルールを運用し、情報モラル教育の推進を図った。外部機関と連携したMSリーダーズが交通安全運動への協力を行った。	①遅刻者数・交通事故件数は減少したか。 ②生徒の把握に努めるとともに、多様な生徒に対応したか。人権意識を高められたか。 ③生徒が主体的に活動したか。	A (B) C D A B C D A (B) C D
12 成果・課題	○大部分の生徒が携帯電話・スマホの新ルールを遵守した ○いじめアンケートや心のアンケート等、即時に対応できた。 ○少人数コミュニケーション講座の開設に伴い、要特別支援生徒に対応する中で様々な課題に柔軟に対応できた。 ○支援員を生徒支援部に位置付け、組織的な支援が出来た。 ▲遅刻・欠席等については継続的な取り組みが必要である。	
13 来年度に向けての改善方策案	・生徒の規範意識、人権意識をさらに高め、「いじめ」が起きにくい環境を作る。 ・遅刻防止の回数指導の方法の改善とともに全校生徒の意識向上のための方策を図る。 ・特別支援教育（個別の教育支援計画、ユニバーサルデザイン）および少人数コミュニケーション講座についてさらなる整備と体制の充実を図る。	

# II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・アンケートでの基本的なモラルやマナー、いじめや差別の防止指導に関して、生徒および保護者ともに取り組み対して高い評価である。 ・主体的に判断し行動に責任を持てるよう共感的な生徒理解に努めている。自己指導能力の育成や自己肯定感を高めるよう指導が積み上げられている。 ・生徒の様々な困り感に丁寧に向き合い、個に応じたきめ細やかな教育活動が展開されている。
---